

鷹取山自然観察会会報

2025. 3. 9

No. 47

鷹取山蝶類について — 2024年調査 —

1.はじめに

当会では2014年6月から月1度の蝶類調査を始めてから11年目となりました。蝶は種ごとに違った食草をもち、気候など環境の違いによってもすみ分けをしているため、地域の自然環境を評価するためのよい指標となっています。蝶は他の昆虫より大型であり、初心者でも比較的特定し易いと思います。

ここでは2024年4月から11月までの8か月間に行った蝶類調査の結果を報告します。

これまでの調査結果については、2014年の結果は会報7号、2015年の結果は会報11号、2016年の結果は会報15号、2017年の結果は会報19号、2018年の結果は会報23号、2019年の結果は会報27号、2020年の結果は会報31号、2021年の結果は会報35号、2022年の結果は会報39号、2023年の結果43号に掲載されています。

三浦半島は三方を海に囲まれ黒潮の影響を受けるため、暖地性の蝶が多く分布しています。横須賀市自然・人文博物館の報告書(横須賀市博物館研究報告(自然科学)第60号)によれば、三浦半島では84種の蝶が記録されています。このうち、普通にみられる健在種は34種、近年減少または絶滅に迫いやられている減少種は27種、温暖化などで増加傾向にある増加種は7種、単発的に記録される偶産種は8種、外来種は8種となっています。

2024年の蝶類調査は、引き続き環境省「モニタリングサイト1000里地調査」に登録して行っています。



蝶類調査のグループ 2024.11撮影

2.調査方法

調査は環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査マニュアル」に沿って、4月～11月まで毎月2回行いました。調査ルートは植物相調査のコースで行い、植生の違う6区間に分け調査しました(会報12号植物相調査ルート(図1と表1)を参照)。調査頻度は月2回第1及び第3金曜日に行い、調査ルートを歩きながら、目視で判別できる種は記録し、シジミチョウ科、シロチョウ科、タテハチョウ科など特定が難しい種については捕虫網で捕獲して確認し、記録しました。

3.調査結果

2024年は、次ページ図の「種数及び頭数の推移」のとおり、15回のチョウ類調査を行いました。調査日によって気温、風の強さなど気象条件および蝶の発生周期により出現する頭数に大きな違いがありました。

調査区間の結果から見てみると、A区間は鷹取山公園内で草地の他、クヌギ、コナラの落葉樹とシイなど照葉樹もある区間です。草地にはキタキチョウ、ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモンなどが見られました。また、樹林内ではコムスジ、アカボシゴマダラ、モンキアゲハ、ヒメウラナミジャノメなどが観察されました。B区間は住宅地及び児童公園があり、アゲハの仲間やモンシロチョウ、ツマグロヒョウモンなどが見られました。C区間はシイ、カシなどの常緑樹の木々が多く、ここではヒカゲチョウやジャノメチョウの仲間が観察されました。D区間はコナラ、オオシマザクラなどの落葉樹が多い場所であり、アゲハの仲間、コムスジ、サトキマダラヒカゲ、ダイミョウセセリなどが見られました。E区間は杉林の林縁であり、ヒメウラナミジャノメやコジャノメなどジャノメチョウの仲間が見られました。F区間は畑地もある場所で、モンシロチョウ、ヤマトシジミなどが観察できました。



ジャコウアゲハ



ツマキチョウ



キアゲハ



ルリタテハ



ジャノメチョウ



ムラサキツバメ



イチモンジチョウ



クロマダラソテツジミ



アサギマダラ

2024年には、ツマキチョウ、キアゲハ、ルリタテハ、ジャノメチョウ、イチモンジチョウ、ムラサキツバメ、クロマダラソテツジミも記録でき、39種が記録できました。一方、2024年に記録できなかった蝶は、オナガアゲハ、ナガサキアゲハ、アカシジミ、ウラナ

ミアカシジミ、オオミドリシジミ、ミズイロオナガシジミ、クロコノマチョウ、コチャバネセセリ、ゴマダラチョウ、ヒオドシチョウ、ヒメアカタテハ、アサギマダラの12種でした。11年間の合計では、51種が記録されたことになります。

2024年は酷暑と尾根筋の乾燥化によって、植物への影響もあったと思われます。毎年の蝶類調査を継続することによって、自然環境の変化による蝶類への影響も把握できる可能性があります。

4.その他

蝶類調査では、絶滅していく種やこの地域で新たに見つかる種を観察することもあるかもしれません。

ここ数年、ゼフィルス(注1)といわれるアカシジミ、ウラナミアカシジミ、ミズイロオナガシジミ、オオミドリシジミが記録できていません。これらの幼虫はコナラ、クヌギなどブナ科の葉が食草であるが、この周辺では大木となっていて、ナラ枯れの被害もあるなど減少の影響もあると考えています。

調査することは楽しみでもあり、調査を継続していくことによって、鷹取山周辺の蝶の生息状況がはっきりしてくると思います。

昨年は、7～9月までは酷暑で調査では熱中症対策を十分とりながら続けております。次年度は酷暑の時は調査を中止するなど健康管理にも努めていきたいと考えいます。

2024年調査に参加した人

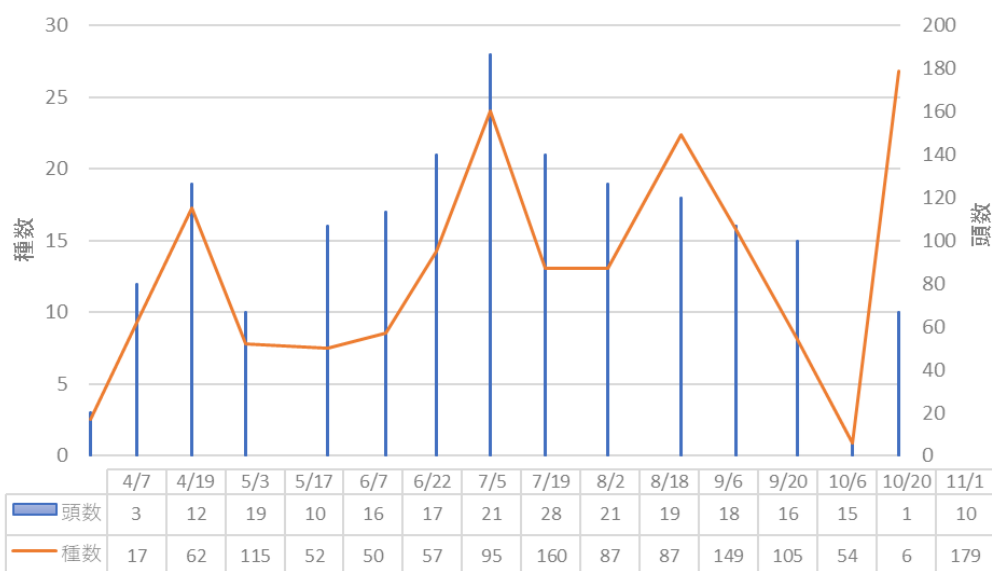
本多久男、中村紀雄、金子龍次、伊沢昭司、大澤美恵子、星野節子、菅沼桂子、弦間幸子、大塚千賀子、三科清高

(順不同、敬称略)

注1) ゼフィルスとは、ギリシャの西風の神ゼフィロスに由来する名前で、昔からミドリシジミ族に分類されるシジミチョウの一部をさす俗称。

本州では主として6月から7月にかけて年に一度出現し、卵で越冬するシジミチョウ科の1群の25種。日本には25種が生息し、オスがハネを開くと、金属光沢のある緑色や青色のハネを持っているものが多い。鷹取山ではアカシジミ、ウラナミアカシジミ、ミズイロオナガシジミ、オオミドリシジミが記録している。

種数及び頭数の推移



	科・亜科	種名	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
1	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	▼	○	◎	●	◎	◎	●	◎	●	●	◎
2		オナガアゲハ	△	△	×	△	△	×	×	×	×	△	×
3		カラスアゲハ	△	▼	▼	●	◎	◎	◎	○	○	◎	◎
4		キアゲハ	△	×	△	△	△	×	△	×	×	×	△
5		クロアゲハ	▼	△	●	▼	○	○	○	▼	○	▼	○
6		ジャコウアゲハ	▼	○	○	●	◎	◎	◎	●	◎	◎	◎
7		ナガサキアゲハ	△	×	△	▼	▼	▼	△	△	△	▼	×
8		ナミアゲハ	▼	▼	○	○	○	○	●	○	○	◎	◎
9		モンキアゲハ	▼	○	○	●	◎	◎	●	◎	○	●	◎
10	シジミチョウ科	アカシジミ	△	×	△	△	△	×	×	×	△	×	×
11		ウラギンシジミ	△	▼	○	○	◎	○	▼	▼	▼	○	○
12		ウラナミアカシジミ	×	△	×	△	×	×	×	×	×	×	×
13		オオミドリシジミ	×	△	△	△	△	×	×	×	×	×	×
14		ツバメシジミ	△	○	○	○	◎	●	●	◎	◎	◎	●
15		ペニシジミ	△	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
16		ミズイロオナガシジミ	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
17		ムラサキシジミ	×	△	▼	▼	○	▼	○	▼	▼	▼	○
18		ヤマトシジミ	◎	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●
19		ルリシジミ	○	▼	○	○	●	●	◎	●	◎	●	◎
20		ウラナミシジミ	×	×	◎	◎	◎	●	◎	◎	●	●	◎
21		ムラサキツバメ	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	△
22		クロマダラソテツシジミ	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	▼
23	ジャノメチョウ亜科	コジャノメ	△	◎	○	○	○	◎	○	◎	●	○	▼
24		サトキマダラヒカゲ	▼	○	◎	◎	○	●	◎	○	○	▼	▼
25		ジャノメチョウ	×	△	▼	▼	△	×	×	△	△	△	△
26		ヒカゲチョウ	▼	▼	○	○	○	◎	○	○	○	▼	▼
27		ヒメウラナミジャノメ	○	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●
28		ヒメジャノメ	△	▼	◎	◎	▼	▼	○	○	○	△	▼
29		クロコノマチョウ	×	×	△	△	×	△	×	△	×	×	×
30	シロチョウ科	キタキチョウ	○	○	◎	◎	○	●	●	●	●	●	●
31		スジグロシロチョウ	△	△	▼	▼	◎	▼	▼	▼	▼	○	▼
32		モンキチョウ	△	△	○	○	○	▼	▼	△	▼	▼	△
33		モンシロチョウ	▼	▼	●	●	◎	◎	●	●	●	●	◎
34		ツマキチョウ	×	×	△	△	×	×	△	×	×	×	△
35	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	△	○	○	○	●	○	◎	◎	●	◎	◎
36		ダイミョウセセリ	▼	▼	○	○	○	◎	○	○	▼	▼	○
37		チャバネセセリ	×	△	○	▼	○	▼	△	△	▼	▼	○
38		キマダラセセリ	×	×	▼	▼	△	△	▼	▼	▼	△	△
39		コチャバネセセリ	×	×	×	△	×	×	×	×	△	×	×
40	タテハチョウ亜科	アカタテハ	△	△	▼	○	▼	▼	△	△	△	△	△
41		アカボシゴマダラ	▼	△	○	◎	○	○	○	▼	○	○	○
42		イチモンジチョウ	×	△	△	×	×	×	△	×	△	×	△
43		コミスジ	▼	▼	○	◎	○	▼	○	○	○	◎	●
44		ツマグロヒョウモン	○	○	●	●	●	◎	◎	◎	◎	●	◎
45		ヒオドシチョウ	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×
46		ルリタテハ	×	△	▼	▼	▼	△	△	×	△	△	△
47		ゴマダラチョウ	×	×	△	△	△	×	△	△	▼	×	×
48		キタテハ	×	×	○	▼	○	▼	▼	▼	○	▼	△
49		ヒメアカタテハ	×	×	×	△	×	△	×	×	△	△	×
50	テングチョウ亜科	テングチョウ	△	×	△	▼	○	▼	△	○	▼	▼	△
51	マダラチョウ亜科	アサギマダラ	△	×	×	×	△	×	×	×	△	△	×

凡例 ×:なし △:1~3頭 ▼:4~10頭 ○:11~30頭 ◎:31~50頭 ●:51頭以上

モニ1000里地調査について(注意事項)

モニタリングサイト1000里地調査(以下モニ1000という)は、2005年から環境省と日本自然保護協会(以下NACS-J)が中心となって開始しました。日本の様々な生態系の動態を100年の長期にわたりモニタリングし、生態系及び生物多様性の保全を目的とした事業です。現在、全国約203ヶ所の一般サイトで、市民を主体とした調査を行っています。当会は第3期の途中2016年にサイト登録していて、神奈川県では22ヶ所、横須賀市では鷹取山と光の丘水辺公園、沢山池の里山の3ヶ所で行われています。

調査項目は、植物相、鳥類、中・大型哺乳類、水環境、カヤネズミ、カエル類、チョウ類、ホタル類、植生図の9項目で、当会では植物相、鳥類、チョウ類の調査をしています。

調査に参加される方は次の注意事項を守り、調査していただくようお願いします。

注意事項

調査は会員が行い、連絡担当係の指示に従い会員同士楽しく行ってください。

また、マナーを守り、公園管理者、民地地権者、ハイカーなど迷惑のかかることは行わないでください。調査では、モニ1000の腕章を必ず着けること。

調査に当たっては、植物相、蝶類、鳥類の各調査マニュアルを必ずご覧ください。調査マニュアルはNACS-Jのweb「モニタリング1000里地調査：マニュアル・調査票」を検索ください。

調査員は、ケガなどしないよう服装、靴などに留意するとともに、体調不良の時は参加を見合わせるなど配慮してください。

万一、調査中にケガなどした場合は、ボランティア活動保険の手続きをとるので連絡担当者へ報告すること。参加される方はボランティア活動保険に必ず加入してください。

調査日は連絡担当者が指定した日に行います。

植物相調査 通年第2金曜日

蝶類調査 4～11月の間第1、3金曜日

鳥類調査 越冬期として12～3月は原則第1、3金曜日、繁殖期として5月6月の第4金曜日、6月第2火曜日

雨天の場合は次の日曜日に順延、更に水曜日に順延します。

調査データの公表は、環境省などへの許可は必要としませんが、発表により貴重種、絶滅危惧種などが盗掘に合う恐れなどあるため慎重に行うこと。原則として行政機関等外部への公表は鷹取山自然観察会として行います。

調査データは、年2回NACS-Jへ提供する。また、年1回調査員名簿を提出します。

前期 1～7月分 8月末提出

後期 8～12月分 翌1月末提出

調査員は貴重種などの保護のため、調査で知り得たラン科、ユリ科、絶滅危惧種の調査結果を、第三者に口外しないこと。また、植物保護のため自然観察会では貴重種などの紹介はしないよう注意すること。なお、調査などで知り得たデータは会員で共有してくだ

さい。



各調査では、NACS-Jとの連絡係、同定係を配置し、記録係は持ち回りで行います。

植物相調査 (連絡係)本多(同定係)金子(記録係)持ち回り

蝶類調査 (連絡係)本多(同定係)本多(記録係)持ち回り

鳥類調査 (連絡係)本多(同定係)北村、本多(記録係)持ち回り

調査は、鷹取山自然観察会会員で行う。ただし、会員の技術向上を図るため専門家を招待することもあります。

2025.3.1変更

大木になり、枝枯れも目立ってきたカラスザンショウが伐採された 2025.2.21撮影



階段整備と植物の保護活動

2020年からのコロナの感染拡大に伴い、外出の抑制などにより、近場である鷹取山へ気軽に来られる方が大変多くなっています。

鷹取山周辺の道は高低差も多く、階段も多いので転倒など注意が必要です。特に水道タンクから摩崖仏方面の階段は杭や留目板が腐っている板などもあり、当会では年間をとおして修繕を行っています。毎年、横須賀市公園管理課には対策をお願いしています難しいようです。今年度も崩れた土留の板の交換と、階段のステップの整備を何度も行ってきました。

鷹取山公園周辺ではケイワタバコの群落をはじめヤマユリ、センボンヤリ、ハチジョウクサイゴなど貴重な植物相が多くみられます。最近では貴重な草花が刈り取られ、盗掘などにより数を減らしています。このため、保護柵の設置や盗掘防止の看板などを設置しています。

当会では、在来生物と貴重種の保護を目的に定期的に活動をしていきますので、皆さんのご協力お願いします。



階段の整備 2025.12



磨崖仏方面への階段



ハチジョウクサイチゴ等の保護柵



アケビの花



ホタルカズラ



スタジイの花

三月のテーマ
「早春の野草を探してみよう」

横須賀の海青々と木通の芽
あけび

四月のテーマ
「春に咲く花をみつけよう」

飛びさうに蛍葛の群れ咲きぬ

五月のテーマ
「オトシブミを見つけよう」

一斉に山の輝く椎の花

俳句

小島常義さんが自然観察会に参加した折に作った句を紹介しています。

サイレント・アース 昆虫たちの「沈黙の春」

会報46号でも報告しましたがモニタリングサイト1000里地調査では、日本の里山からチョウやホタルなどの昆虫類、鳥類、植物相などの身近な生物種の多くが減少傾向にあることが報告されました。

レイチェル・カーソンが、『沈黙の春』で「鳥の鳴き声が聞こえない春が来る」とDDTの危険性を訴えたことにより、その使用が禁止されて半世紀です。

今回、Dave Goulson(デイヴ・グールソン)が「サイレント・アース 昆虫たちの「沈黙の春」」を紹介します。この本では、世界的に昆虫が急激に減少していることをさまざまなデータで示し、原因に言及しています。そのうえで、昆虫が減少すると、生態系が崩壊し、農業に対しても食料供給など大きな影響があると警告しています。

昆虫が減少した原因の一つとして農業を挙げ、例えばミツバチの大量死とネオニコチノイド系農薬(ニコチンと類似した化学物質)の関係です。ネオニコチノイドは浸透性農薬と呼ばれ植物のあらゆる部位に浸透します。このためヨーロッパ諸国で、ミツバチの大量死や数の減少が報告されるようになりました。

カーソンの時代の農薬よりはるかに毒性の強い農薬によって、最初に犠牲となるのは小さな昆虫などです。さらに土壌は劣化し、河川は化学物質に汚染され、ますます昆虫のすみかは縮小し、加えて急激な気候変動で虫たちの生態環境は悪化し、絶滅のスピードが加速れています。

「今、昆虫たちはあなたの助けを必要としている」と。著者によると、昆虫がいなくなると、花や作物が受粉ができなくなるし、その虫を食べる生き物(鳥類や哺乳類)も死に絶えていく。

この危機を救うためには環境を意識する人が1人、また1人、と増えていくことで、未来の地球は変わるはず、原因は多岐にわたり解決は困難に思えるが、「まだ手遅れではない」と著者は述べています。

庭に除草剤をまくのをやめたり、できるだけ自然な方法で作られた野菜を購入するようにするなど、一人ひとりができることが提案されています。

最後に、「私たちにできること」として次のことを提言

しています。

- 1 環境に関心を高める
- 2 都市を緑化する
- 3 農業の未来について
- 4 あらゆる場所に自然を
- 5 みんなで行動する

私たちが行っている鳥類、蝶類などモニタリング調査を続けることで生き物の生息の推移を記録できると思います。

また、自然観察会の開催によって地元の自然環境に少しでも関心を持ってもらえんと思います。

この本を読んでいる方もいると思いますが、昆虫が嫌いな方も一度読んでみてください。図書館でも借りられます。

学研の図鑑LIVE(ライブ) 昆虫

皆さんはどんな昆虫図鑑を持っていますか。昆虫は種数も多くて、図鑑選びも困るところです。図鑑は持ち運びには不向きですが、学習するためには必需品です。

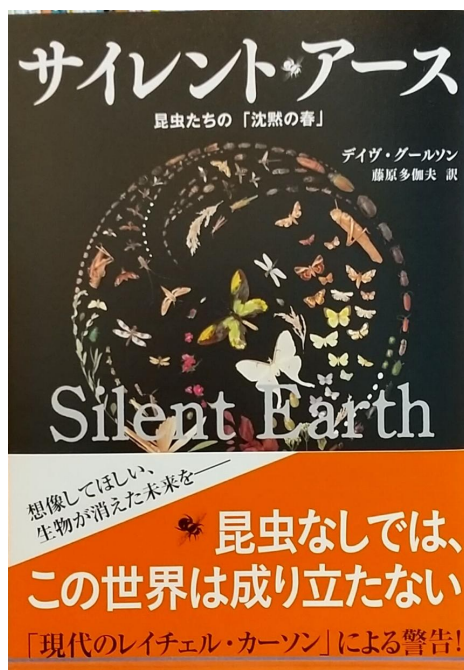
図鑑には見たこともない昆虫や遠くに行かないと会えない昆虫なども掲載されていて、時間のある時に、図鑑を眺めていても楽しいものです。

ここで紹介する「学研の図鑑LIVE 昆虫」は2022年に新版として再登場したものです。この図鑑は昆虫学者の丸山宗利さんが監修したもので、昆虫は約2,800種を生きた状態で撮影したものです。昆虫の大きさは実物大で、雄雌の見分け方、卵から成虫になるまでの育ち方、飛び方、捕食について等、昆虫の生態がよくわかります。

ここでは、学研の図鑑を紹介しましたが、他にも多くの図鑑がありますので、自分に合った一冊を選んでください。

昆虫は種数も多く、年間を通して目にすることができます。名前を知ることには困難なこともあります、図鑑など活用してください。

私たちももっと昆虫にも関心を持っていきましょう。



鷹取山自然観察会のご案内

2025年度自然観察会の予定

鷹取山自然観察会では、自然とのふれあいを大切にして季節ごとの様々な生き物を観察しています。日程は表のとおりです。初めての方もお気軽にご参加ください。

日 程	観察会のテーマ	集合場所
4月13日(日)	春に咲く花を見つけよう	京急田浦駅
5月11日(日)	新緑の樹木ウォッチング	追浜駅
6月 1日(日)	初夏に咲く花を観察しよう	神武寺駅
7月	猛暑のため中止します	
8月	猛暑のため中止します	
9月14日(日)	鷹取山の秋の七草は何でしょう	京急田浦駅
10月12日(日)	鷹取山の秋を探してみよう	追浜駅
11月 9日(日)	野菊の違いを観察しよう	京急田浦駅
12月14日(日)	落ち葉の種類を見分けよう	追浜駅
1月11日(日)	冬を越す樹木とロゼットを観察しよう	追浜駅
2月 8日(日)	冬鳥の観察と冬芽を観察してみよう	京急田浦駅
3月 8日(日)	早春の野草を探してみよう	追浜駅

注) 観察会のテーマは変更する場合があります。直近の情報ご確認ください。

◆集合場所：集合場所駅改札出口 9時20分集合 30分出発

観察会は12時まで現地解散小雨は決行。大雨の場合は翌週の日曜日に延期します。(延期の場合は朝7時までメールで連絡します。)

◆参加費：会員100円、非会員200円(保険料・資料代)小学生100円、未就学無料

◆定員：20人、先着順

◆申込方法：住所、氏名、電話番号(保険加入のため)メールアドレスを記入して、下記のアドレスまで申し込みください。小中学生は学年をお知らせください。

◆持ち物：歩きやすい服装、メモ帳、鉛筆、飲み物、あれば虫眼鏡及び双眼鏡

◆注意事項：コースの途中には坂道、足場の悪い場所もあるため滑りにくい靴で参加下さい。当日、体調が悪い場合は、参加は見合わせてください。

◆主 催：鷹取山自然観察会

《問い合わせ・申込み先》

メールアドレス takatori_0721@nifty.com

HP「鷹取山自然観察会」から申込できます。

電話：090(4177)0164





定例自然観察会の予定

4月13日(日)	「春に咲く花を見つけよう」	京急田浦駅集合
5月11日(日)	「新緑の樹木ウォッチング」	追浜駅集合
6月1日(日)	「初夏に咲く花を観察しよう」	神武寺駅集合

モニタリング1000里地調査の予定

植物相調査	4月11日(金)	集合場所、時間	蝶類調査	4月4日(金)、18日(金)	集合場所、時間
	5月9日(金)	鷹取山公園東		5月2日(金)、16日(金)	鷹取山公園東屋
	6月13日(金)	屋10時集合		6月6日(金)、20日(金)	10時集合

鳥類調査	5月23日(金)	9時30分西友鷹取店
	6月3日(火)、27日(金)	電話ボックス前集合

自然観察会の延期は翌週日曜日です。モニ1000調査の雨天延期の場合は日曜日、更に水曜日となります。

自然観察会の報告

12月8日(日)	落ち葉の種類を見分けよう	会員7人、非会員5人、計12人
1月12日(日)	冬を越す樹木とロゼットを観察しよう	会員3人、非会員2人、計5人
2月9日(日)	冬鳥の観察と冬芽を観察してみよう	会員9人、非会員11人 計20人

モニタリング1000里地調査の報告

植物相調査	12月13日(金)	曇8.4℃	参加7人	
	1月17日(金)	快晴8.1℃	参加10人	
	2月14日(金)	晴9.3℃	参加6人	

鳥類調査	12月6日(金)	快晴15℃	参加6人	10種71羽	
	12月20日(金)	快晴8℃	参加7人	16種92羽	
	1月10日(金)	晴	参加7人	14種99羽	
	1月26日(日)	晴11℃	参加5人	9種47羽	
	2月7日(金)	快晴	参加7人	16種80羽	
	2月21日(金)	晴9℃	参加4人	18種75羽	

当会では不定期ですが、会員有志で階段の整備、植樹場所の手入れ、貴重植物の保護のため保護柵の整備など行っています。主旨賛同される方は、参加ください。

鷹取山自然観察会(ホームページを見て下さい)

HP:鷹取山自然観察会

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>

連絡先:世話人代表:本多久男 e-mail:takatori_0721@nifty.com